



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして

10



「お星さまをみました」つゆはし作業所 小川 陽一さん ※紹介が11ページにあります。

CONTENTS

- ▶ シリーズ 50 周年に想う② P2～3
～あれから半世紀、仲間たちは今～
- ▶ 9.14 職員研修開催 P4～5
- ▶ シリーズ 命を守る その4 P8～9
東日本大震災から8年 いのちとねがいを大切に

2019年 10月10日 毎月1回10日発行 一部100円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

連載

シリーズ 50周年に想う 28

あれから半世紀、仲間たちは今

50周年を迎えるにあたって「どんなふうに仲間の皆さんに登場してもらおうか」と考えた時、最初に頭に浮かんだのが「同窓会」でした。「ゆたか作業所」の本には、20名の仲間たちが登場します。もう60代半ばを過ぎていらっしゃる皆さんです。

「柱一本でも、石ころ一つでも持ち寄って」の時代を経験したお母さんたちから、「ゆたかがなかったら、うちの子はどうなっていたらろう」という言葉をよく耳にしてきました。ゆたかとともに半世紀を歩んできた仲間たちは、今、どんな暮らしをし、どんな願いをもっているのかを語り合い、そして「いろいろあったけど、みんなよく頑張ってきたよね」と励まし合い、未来につながるそんな「会」にしたいと思いました。これから3回に渡り、そんな想いから始まった取り組みについて紹介します。

あの人は今

「同窓会」の呼びかけ

「ゆたか作業所」の本を開き、まず仲間の皆さんの「今」を確認することにしました。ご家庭から作業所に通っている方、作業所で働き、グループホームで暮らしている方、生活施設で暮らしたり、ホームでサービスを利用しながら暮らしている方々など、様々な皆さんがいらっしゃるごわわかりました。

また、すでに6名の方が他界され、連絡先のない方も2名お見えになりました。こうして

保護者の方や職員も含

め、20名余の皆さんに

ご案内をお送りし、14

名の方から出席のご連

絡を頂くことができました。

した。



仲間の皆さんの「今」を知ろう!

当日に向けた準備として、各事業所には仲間の皆さんの「今」を知るために、聞き取りへの協力をお願いしました。お聞きしたのは「昔、仕事はどんなことをしていましたか」「今の様子と困っている事や心配なことがあれば教えてください」「将来について、これからやってみたいことを教えてください」の3点です。

職員の皆さんには「本人が話した言葉で記入する」ことをお願いしました。

《堀昌彦さん》

・お弁当もって行ったわ。洗濯バサミ作ったんだわ。

会計(若者会)でお金集めとった。

・(今の仕事) クリーニング班だわ。タオルに名前がついとるで、それを間違えないように見る。表か裏かよく見て、たたんでそろえて、やっておる。それ

からズボンや服を表と裏をたたんでおる。布団の敷布を機械に持って行って、石鹸つけて洗う。タオルやズボンもいろいろあるでませて洗う。それから乾燥する機械が止まってから出して、別々にする。

・お父ちゃんとお母ちゃんのお墓参りに行きたい。

・(これからやってみたいこと) 貯金して、この辺に鉄道の線がないので、どっか旅行に行きたい。新幹線に乗りたい。岩手とか北海道とか広島に行きたい。あとは歌の練習がしたい。へたくそだから。

《近藤光子さん》

・(今の様子) ホームでテレビ見てる。毛糸編んでる。買い物に行く。(月曜から金曜は) ゆたかに行つて、ちーちゃんと一緒にバスに乗って行って、カバンを置いて仕事する。

《磯部 和明さん》

・(グッドウィルは) 中学校の先生に紹介してもらった。ドラムの仕事は朝8時20分から5時まで仕事をしました。次の年の2月1日に片山企業がつぶれて職

員がびくびくした。次の年の3月にゆたかができた。楽しかったのは誕生日会とかゆたかの日曜学校。同窓会では昔の話がしたい。50周年に来てほしい。(今の様子) 職員と一緒にコーヒータ임을 やっている時が楽しい。カラオケたまに部屋でやっている。外食が楽しい。

・(心配なこと) 土日男性職員に泊まって欲しい。(将来について) 死ぬまで職員と一緒にご飯食べたらい。コーヒータ임。67年生きたけど身体がぼろぼろ。フラフラになったり倒れる。「年とったなあ」と思う。若い時は自宅にいたけど、ホームに来て安心。家にいたときは洗濯できなかったけど、できるようになって良かった。前の職員に会いたい。大ちゃんとか。

《加藤 春子さん》

・仕事はドラムとか箸入れ、車の砂を固める仕事。峯保さんとマラソンや歩く練習、言葉の練習した。昼休みにサッカーしたり、歌った。(最近の様子) ヘルパーと料理したり、お風呂入ったり、買い物行ったり、病院行ったりしている。あとは部屋でテレビ、ラジオ、CDを見たり聞いたりしている。

・(将来について) 身体のことを不安。寝たきりになったらホームにおれんじよ、一番心配。

《柘植 敬子さん》

・昔はドラムの仕事。倒産しちゃって、その時は悔しかった。大高の般企業の体験もしたことある

けど。ゆたかでもわりが田んぼのところでハンダづけや鉛の棒さしもした。お昼はお弁当だったから、好きな物ばかりで良かった。

・(今の様子) 「にぎわい」で、帯はりやメール便の紙をはさんだりしている。みんなで出かけたり、取り組みは楽しい。

・(今、困っていることや心配なこと) 特にないけど、お兄さん、お義姉さんが亡くなったらどうしようかと思う。

・(将来について) 仲間とゆっくり話したい。犬の話がいいかな。オシャレな服が買いたい。

《福留 英修さん》

・インターホンの仕事。タイプライターやとった。作業に通うのが楽しかった。みんなでやるのが楽しかった。野添ちづるさんとは本城中学校の同級生。給料2万円もらうとった。休みの日は買い物しとった。キャンプファイヤー楽しかった。

・(今の様子) ビーズを通す仕事やってる。他には広報の仕事やったり。悩んだら。希望の家の仲間。夜、寝れなくて起きとった時もある。

・(将来について) いっぺんホームに見学に行きたい。ホームで泊まりたい。ちょっと暮らしてみたい。ホームに入りたいから。だけど親がどうなるかわからんで。

《鈴木 節子さん》

・電気のドライバー使って、インターホン組み立ての仕事。ベルトの流れ作業、慣れるまで大変だった。

第1・第4土曜日は仕事だった。仲間の会の四役はぜんぶやったよーせつこさんとはしよちゅう喧嘩してた。三谷紀子さんとは小学校から緒で仲良かった。1か月2,500円お給料もらう時が一番嬉しかった。

・(今の様子) 仕事はハチライン、紙折り、金具の袋入れ、帆タラの串刺し。お給料とボーナスもらう時が嬉しい。9月の古希のお祝いが楽しみ、お義姉さん、呼んでね。

・(今、困っていることや心配なこと) 足が痛いのがちょっとね。

・(将来について) ふれあいでも、お金ためて、おんぶのミーコ(ねこのリュック)が欲しい。手芸用品とかも買いたい。

今回、全員の方をご紹介することはできませんが、ひとり一人の仲間の皆さんが、それぞれの記憶とともに過去を振り返り、今の思いや将来について率直な想いを聞かせて頂くことができます。たくさん学びをさせて頂いたように思います。(次号に続く) 広報編集委員 向幸子





9.14 職員研修開催

今回の研修は、今年度2回目の職員研修として、電気文化会館を会場に160名の職員が参加し開催されました。以下、内容について紹介します。

法人からの報告



研修は大病から復帰したばかりの理事長から、「ゆたか福祉会50周

年に向けた取り組みと、きょうさん愛知大会を何としても成功させよう！」との力強い挨拶から始まりました。

次に7月からスタートした新規事業「みらい」（生活介護事業みらい／ホームみらい）の紹介が行われました。副所長と新入職員のペアでそれぞれ行われた報告は、若手職

員の緊張の中でも新たな事業に携わる決意とエネルギーが感じられ、会場から大きな拍手が送られました。

続いて後藤法人本部長から、テーマに基づいた報告が行われました。またライフサポートゆたかの今治さんからは、この間行った「高齢になった障害者、家族の生活実態調査」について報告がありました。

第5期総合計画の到達の特徴としては、高齢化・重度化に対応した設備を整えたホームを新設してきたこと。働く場の取り組みとしては「ディンクルなごや」など、施設外就労の拡大や清掃・洗濯事業、「ゆたか作業所」の配食事業などを軌道に乗せてきたこと。半面、せっけんやパン製造など自主製品から撤退した事業所では、仕事確保や開拓の試行錯

誤が続いていることが報告されました。また福祉社では、急激な人口減少による地域全体の課題を抱えており、将来構想の検討を行うためのプロジェクトを立ち上げ、第6期中心の課題として位置付けていくことが報告されました。

今後はより一層、年齢や障害特性などひとり一人にふさわしい暮らしと活動の場の創造が求められていること。そして生活実態調査からも見えてきたように、利用者本人の加齢に伴う変化や家族自身が抱える問題があること。親も子もゆたかな人生という視点と、それを支える社会や制度の仕組みを考えていくことが必要であることが話されました。

あわせて社会資源の創出、託せる事ができる人材、経済的保障、ライフステージにわたった支援といった多岐にわたる視点をもって検討する必要があると報告されました。さらに10年ビジョンでは、事業の継続性と10〜20年先に予想される社会の姿から、何に取り組んでいかなければならないか、人口減少や地域再生についても触れられました。

岡山 加代子

「実践のまとめ」 中間報告

自治会活動

「50年の歴史を振り返る」ことは、単に活動内容について歴史をまとめしていくのではなく、その時々での自治会活動に職員はどのような考えを持ち、働きかけていったのかについてもまとめることを重視しています。

1968年のグッドウィル時代に「若者会」が誕生したのは、その時代に置かれた障害者の状況が背後にありました。ひとり一人がバラバラではなく、自己主張ができ、また集団として行動のできる仲間たちの姿を求めた歴史の出発点でした。

この原点ともいえる取り組みを紹介し、今日の自治会連合会の取り組みや、これからの自治会活動支援について担当職員への実態調査や、鈴木峯保氏の学習から学んだことなどについて報告しました。

武藤 信一郎

生活施設

●ゆたか希望の家

今回の歴史・実践をまとめるにあたっては、まず歴代所長に聞き取りを行い、その後、総括研究会などの資料から補足をするというまとめ方にしました。

聞き取りでは「希望の家が実現しよう」と取り組んできたのは、利用者が主人公、職員は利用者の生活に合わせて動く、つまり権利の主体としての人間らしい生活の実現であることが話されました。

語られた内容は過去のことですが、「制限からは何も生まれない」「出来ない理由を障害のせいにはしない」「経験しなければ世界は広がらない」「一人で考えるのではなく全員で取り組む」等々、今、現場で起きている課題に対して指針となることばかりです。今後に活かしていきたいと思います。

倉地 伸顕

●福祉村

今回は強度行動障害の方への支援について報告をしました。福祉村の2つの入所施設では、多くの強度行

動障害の方が穏やかに過ごされています。穏やかに過ごせる要因を3つの項目で整理しました。

1つ目は小舎制個室・職任分離です。5名ずつの小集団で家庭的な雰囲気の中で生活をされ、昼間は生活棟を離れ活き活きと活動を行っています。このような生活のメリハリが穏やかに過ごせる要因だと思います。

2つ目は中山間地域で、施設のつくりも敷地も広いことです。皆さんののびのびと過ごされています。

3つ目は職員研修です。適切な支援を行うためには、障害特性を理解することが大切です。職員会議で強度行動障害の方への支援についての研修を実施しています。

荒川 元仁



相談

報告では「相談」に馴染みのない方もみえることを想定し、皆さんと共有したいことを中心にお伝えしました。当日は「緑区障害者基幹相談支援センター（委託相談支援事業）」と「指定特定・一般・障害児相談支援事業所（指定相談支援事業）」から報告を行いました。利用者支援に大切な地域の多種多様な職種との連携など、活動内容は同じですが、各々には役割の違いがあります。

事業本部としては、相談支援技術の向上や人材育成、運動など共通する課題について、50周年のまとめや第6期総合計画、きょうざれん活動と共に取り組んでいます。今回「サービ担当者会議」の動画をを通して、「当事者主体」の支援・実践の重要性と、「意思決定支援」が「支援の基本の基本」であることを、共有できたかと思えます。

丸山 京子

各種報告後は、2月に引き続き16のグループに別れて討議が行われました。発言のあとには拍手、そして時には笑い声も聞かれるなど、職場や職種を超え共通テーマで話し合うことの大事さを改めて感じた取り組みとなりました。

アンケートで出された感想・意見

- ・若手職員がやりがいやステップアップ（成長）を感じられる育成が出来ていないように思う。20代の職員が多いのであれば、その世代をサポートする仕組みを作る必要があるのでは。（5年未満）
- ・地域との繋がりが今は薄れているような気がする。施設だけでなく地域を支えていくことももう少し軸を置いてほしい。（10年以上）
- ・交換実習導入の実現。（5年未満）
- ・密な話し合いができた。地域のネットワークや相談員、ヘルパーとの繋がりがなど一人一人の考えが聞けて、とても刺激を受けた。（5年未満）
- ・漠然と感じる不安と目の前の事業所の課題に塞がれて、先を見据えた話をするところから離れてしまったことを自覚できた。（10年以上）
- ・同僚に対しての言動が厳しい人がいる。コミュニケーション能力の向上を図る研修や啓蒙があると良い。（3年未満）
- ・2つの事業所でも良いので、グループワークとかは日頃からできると良いなと思った。（5年未満）

権利擁護・虐待防止に関する 「ご家族の方へのアンケート調査(18年度)」の 結果について



今年2月、ご家族の方々の協力を得て表記アンケートを実施しました。その集計結果がまとまりましたので概要を報告させていただきます。アンケートで示された課題やご意見・要望に関しては、今後の支援の向上に役立つよう活用していきたいと考えています。ご協力、ありがとうございました。

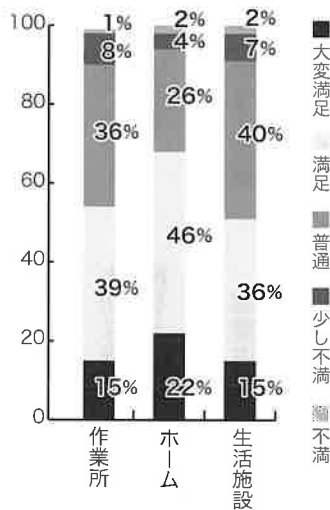
◆アンケートの概要

- ・アンケート実施期間：2019年1月末～2月
- ・回答数：208人(作業所129人 グループホーム34人 生活施設45人)
- ・アンケート内容

①	職員のおいさつはしっかりとできていますか。
②	職員的身だしなみ・言葉遣い・電話の対応は適切ですか。
③	職員はよく話しかけるなど話しやすい雰囲気ですか。
④	希望、要望について話をきいてくれますか。
⑤	希望、要望について伝えてくれますか。
⑥	連絡ノートなど事業所とのやりとりはできていますか。
⑦	知りたいことをいつでも知る事ができますか。
⑧	所長とのコミュニケーションはよくとれていますか。
⑨	職員は仲間のことをわかってくれますか。
⑩	職員の間への接し方はいい感じですか。
⑪	介護・支援の方法は適切ですか。

◆全設問を合わせた回答結果

全設問を合わせた回答結果



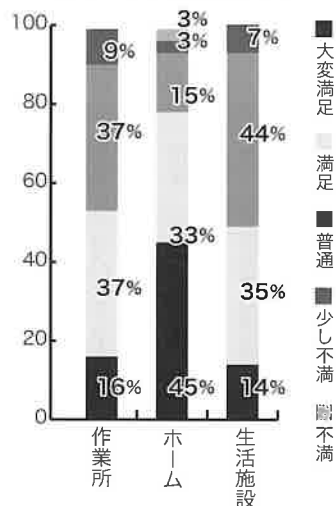
3つの事業領域でみると、グループホームの支援に対する評価が高いことがわかりました。一つ一つのホームが少人数であることや、地域支援事業本部として職員研修を丁寧に実施していることなどが、こうした評価になって表れているのではないかと思います。

上記11の設問それぞれについて「大変満足」「満足」「普通」「少し不満」「不満」の5つの選択肢で答えて頂きました。
また、自由記述欄を設け、各設問項目に関して気になることや改善してほしいこと、事業所や法人に対するご意見や要望について書いていただきました。

◆各設問への回答

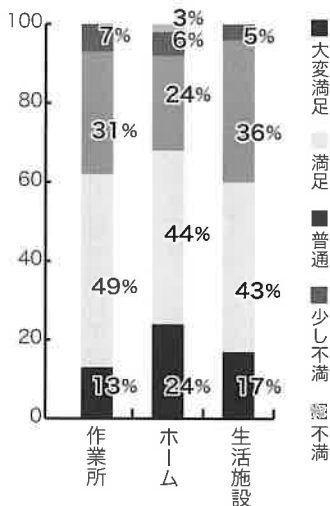
①いくつかの設問について回答状況を見てみます。
③職員はよく話しかけるなど話しやすい雰囲気ですか。

職員はよく話しかけるなど話しやすい雰囲気ですか



④希望、要望について話をきいてくれますか。

希望・要望について話を聞いてくれますか



③④はともに職員とのコミュニケーションに関する設問ですが、両方とも、「大変満足」「満足」と回答された方が6～7割でした。特に、③ではホームの高評価が特徴的です。

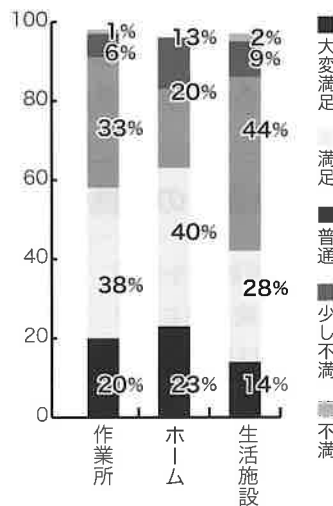
一方で、自由記述では、「話す機会そのものが少ない。もっと機会を増やしてほしい。思いっきり話し合うことができる」といい「話しかける職員が限られている」「担当職員とは話しやすいが、他の現場職員とは話しにくい」「職員がいつも忙しいように感じるので話しかけにくい。きっかけが足りなく」「といったご意見がありました。職員側からもっと積極

的に声をかけたり話す機会を設けていくことが必要だと思えます。

また、「人手不足のなか職員はいつも忙しそうに余裕がなさそう。だから要望を言いくいし、言っても聞いてもらえないと感じている」「いろいろな言ったら職員が退職してしまうのではと気になり、少ししか要望を伝えられない」といったご意見の様に、要望を伝えることを遠慮されたり我慢されている姿も浮かび上がってきました。

⑥ 連絡ノートなど事業所とのやりとりはできていますか

連絡ノートなど事業所とのやりとりはできていますか

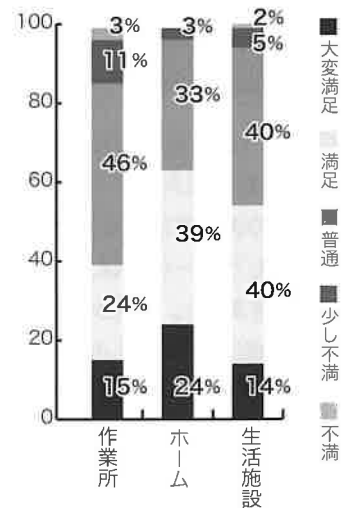


例年、連絡ノートをめぐる行き違いやトラブルは数多く発生しています。自由記述では、「家族側からの記入にサインもコメントも何もない時がある。読んでいいのかいなのか気になる」「提出物等を受け取ったらその旨をちゃんと書いてほしい」「文字が汚かったり文意があまりで意図が伝わらない時がある」などのご意見がかなり目立ちました。連絡ノートのやり取りの基本にかかわることなので、改善に務めていかないとけません。

また、「月1回の帰省時に連絡帳を見ても数行しか様子が書かれていない。仲間のことをちゃんと見ていくのか疑問に思う」「困った行動のことだけ書かれていても、家でどう対応していいのか困るときがある」といったご意見があるように、事務的な連絡だけでなく、ご家族の立場に立って仲間の様子をお伝えし共有していくことが問われていると思えます。

⑧ 所長とのコミュニケーションはよくとれていますか

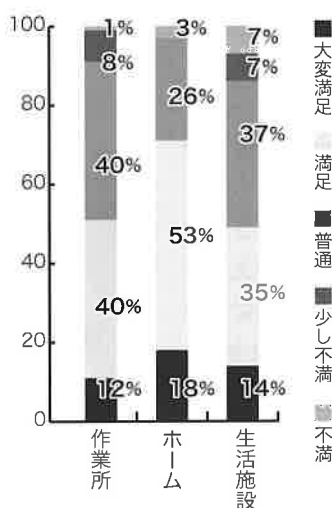
所長とのコミュニケーションはよくとれていますか



日常的に顔を合わせる機会の多い作業所で評価が厳しくなっています。自由記述では「所長とはコミュニケーションをとれていない。会う時間がない」「職員の方々は満足しているが、所長とはほとんど会話がなく私達に無関心」といったご意見がありました。忙しく会う時間が作れないのはしかたない面もありますが、「無関心」という指摘はきちんと受け止め、改善をはかっていかなければいけません。

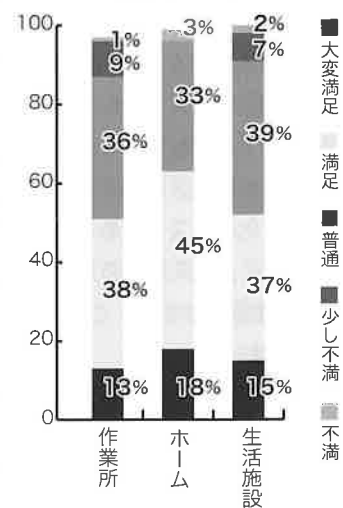
⑨ 職員は仲間のことをわかってくれますか

職員は仲間のことをわかってくれますか



⑩ 介護・支援の方法は適切ですか

介護・支援の方法は適切ですか



⑩はほぼ同じ回答状況になっており、仲間に対する理解度と介護や支援方法の評価は関連しているといえます。自由記述からは、「もっと本人が納得するように説明してほしい」「なぜ落ち着かないのか不安定なのか、原因を捉え、気持ちに寄り添ってほしい」など、仲間の内面をより深く把握した対応を求める声が寄せられていました。

また、「日々の健康状態を把握し、状況により適切な判断をお願いしたい」「排便や健康(疾病)、食事ケアについてももっと勉強してほしい」「服装や身だしなみについて、寒暖差や四季の考慮、身ぎれいな恰好など、もう少し気にかけてほしい」「緊急時や叱咤の際の安全確保」等の要望や、「勉強不足。仲間が主人公と言っ考え方がない。管理主義を強く感じる」「もっとプロ意識を持ってほしい」といった厳しい指摘もありました。

◆ おわりに

以上、アンケートへの回答状況をいくつか紹介させていただきましたが、その内容については、先日の保護者会連合会の学習会でも報告させていただきました。各事業所では、このアンケート結果をもとに、職場の現状を振り返り改善につなげていくことになっています。今後、同様のアンケートを毎年実施しながら、支援の向上へむけて取り組みをすすめていきたいと思えます。

ゆたか福祉社会 権利擁護・虐待防止会議

シリーズ
命を守る

その4

東日本大震災から8年 いのちとねがいを大切に

今年の広報3月号では、「いつどこで起きてもおかしくない自然災害や、防災対策の強化を図る」とし、各事業所の取り組みと保護者連合会新年会で行った「自然災害への備えについて」の報告を掲載しました。全国各地で自然災害の脅威が高まっている今、この間の取り組みを紹介します。

ふれあい共同作業所

～町内会との関係づくりを大事に～

所長 宮園 誠司



作業所は、防災訓練を先駆的に行っている星崎学区にあります。2013年には仲間と一緒に防災訓練にも参加しました。当日は日曜日の為、仲間の参加は約半数。作業所から星崎小学校まで歩き、別室に通され、待機するという取り組みでした。しかし、実際に避難が想定され

るのは平日の日中です。小学生もたくさんいる学校に避難することは「困難ではないか」とも考えました。建物さえ無事であるなら「作業所で過ごす事を考えた方が良いのでは」と思う気持ちもあります。

2016年からは町内会の会費も納め、関係も一歩前進しました。学区防災担当の早川さんにアドバイスを頂き、今後は町内会長と防災時についての話し合いを持つ予定です。「助かった命を、どう守っていくのか」について考えることが、これからの課題です。

ゆたか生活支援事業所なかがわ

～築きたい“頼り、頼られる関係”～

小見 勇太

9月8日(日)に行われた地域の防災訓練では、正保南公園から名古屋入国管理局玄関まで津波を想定した避難をし、その後、自主防災訓練に参加しました。

これまででも万が一の時は、地域の方と連携を取れるように意識してきました。7月からは同じ地域に「ホームみらい」もでき、一緒に参加しました。自主防災訓練は、消火器を使った消火訓練や三角巾を使った応急手当、心肺蘇生とAEDの訓練が行われました。毎回みんなで積極的に参加していますし、今回初めて参加した仲間も、消防団の皆さん

に教えてもらい頑張る姿がありました。

「地域との繋がり」と言葉では簡単に言えますが、関係性はすぐにできるものではありません。今後も地域の防災訓練に積極的に参加し、“頼り、頼られる関係”を築いていきたいです。



ワークセンターフレンズ星崎

～災害図上訓練を行って～

鈴木 拓也

事業所では今年度、火災総合訓練を年2回(5月・10月)、地震避難訓練を1回(2月)、防災図上訓練を1回(7月)の消防計画を立てました。今回は7月に実施した災害図上訓練について報告します。

作業所のある南区は、南海トラフ地震が発生した場合に、津波や液状化のリスクがある地域です。今回は地震による津波・大雨による天白川の氾濫を想定して、南区のハザードマップを確認しながら、この地域にあるリスクを職員間で認識しました。

合わせて、利用者の居住地とハザードマップを照らし合わせ、災害時の対応について意見交換をしました。ご高齢の家族と同居している利用者など、自分たちでリスクを回

避することが不安な方がいることがわかりました。災害時にじっくりと時間をかけて話しあうことや、冷静になって適切な判断をすることは容易ではないので、確認したことをマニュアル化などして、災害時にスムーズに対応がとれるようにしておく必要があると思いました。

また図上訓練を行うにあたって、南消防署予防課へ相談をすると、「防災図上訓練は、避難訓練と比べて時間や場所などが設定しやすく簡易に取り組める」「消防署と連携して取り組むことも可能」とのことでした。職員一人一人が防災の意識を高めて、災害から利用者や地域住民を守ればと思います。

グループホーム エール

～今度は炊き出しを取り組めます！～

杉本 雅明

今回で5年目を迎えた「ふれあいひろば」では、毎年12月に防災訓練を兼ね、地域交流を行ってきました。防災訓練では学区の消防団のご協力で、近くの公園への避難や消火訓練、AEDの使い方、エレベーターが使えなくなったことを想定した手作り担架での避難等、様々なことを取り組んできました。

今年の「ふれあいひろば」では、消防団の方より「炊き出しをやるう!」と提案して頂き、エールの駐車場で行いま

す。継続して行うことで、消防団の方からも色々なことを提案して頂いたり、地域の皆様にも、エールがどのようなところか知って頂くことができます。普段から地域との繋がりを持っていることで、災害時等、お互いに来ることが増えるのではと思います。特にエールは車イスの仲間がほとんどで協力が欠かせません。その事を知って頂くだけでも価値のある取り組みかと思います。

保護者連合会

親・家族の願いに込めて～研修会の開催～

保護者連合会役員・グループハウスなぐら家族会会長 永井 良三

暑さが続く9月10日、研修会には80名の出席者がありました。今年の研修会は、これまでと少しおもむきを変え、映画鑑賞、講演、そして法人からの報告と多彩な内容となりました。

まず午前中は、2011年3月11日に東北地方を襲った地震にともなう津波被害に遭遇した障がい者の状況とその支援者の活動を描いた映画「星に語りて」(きょうされん制作)を鑑賞しました。未曾有の災害のなかで、障害者の命



をどのように守ったのか、そしてそれをささえた支援者、施設職員の献身的活動は、私たちに深い感動を与えました。

東海地区でも「南海トラフ巨大地震」が懸念されますが、突発的な災害に個人で対応す

るには限界があります。午後からの講演は、「大規模災害に備える～地域の中で障害のある人や高齢者・家族が安心して暮らせるために～」と題して行われました。講師は、「ゆたか共同作業所」発祥の地である名古屋市南区星崎学区連絡協議会防災担当、星崎消防団の早川典夫さんと、名古屋市南区手をつなぐ育成会会長の濱田智恵美さん。早川さんからは星崎学区での自主防災組織の紹介や、「地域で助け合うこと(共助)の大切さ」のお話が、濱田さんからは行政と一緒に、取り組んでいる活動について紹介がありました。



最後に法人本部長の後藤強さんから、今年2月に実施された「権利擁護・虐待防止アンケート」の集計結果のまとめについて報告が行われました。

参加された皆さんの“声”(アンケート抜粋)

○「星に語りて」の鑑賞

- ・障害者だけの目線ではなく、行政を動かす為には地域全体の理解が絶対必要だと感じた。
- ・この映画をもっと一般の方に、高校や中学などで上映して頂きたいと思った。
- ・とても感動した。実際に災害があった時に、避難所に我が子と共に行けるかというとなかなか難しいと思う。そういった時に「私たちはここに居るよ」というサインを受け止めてくれるといいなと思う。
- ・この映画はぜひ、行政の方に観てもらいたいと思った。



○「大規模災害に備える」の報告

- ・南区の防災の取り組みを改めて聞くことが出来て良かった。我区の防災の参考にしたい。
- ・今回、「要配慮者」という言葉を知り、勉強になった。
- ・日頃から地域の方々とコミュニケーションを取り、各家庭の状況(困り事)などを把握してもらおうことの大切さを感じた。
- ・具体的な日常の取り組みが聞いて良かった。何より日頃から声を挙げ、存在をアピールしておくことの必要性を痛感した。

きょうされん大会

in あいちーなかまの輪ー

あと2週間 間近に迫った第42回全国大会 ～名古屋国際会議場でお会いしましょう!～

10月25日、26日に開催されるきょうされん第42回全国大会 in あいち。大会本番がいよいよ間近に迫り、準備事務局はじめ各企画担当者の動きも慌しくなってきました。大会自己資金作りも、皆様のご協力のお陰で目標を達成し、参加目標も3,000名を超える規模となっています。これからは参加して下さる全国の皆さんが、「愛知大会に参加して良かった!」「元気をもらった」と感じてもらえる大会となるよう、愛知支部はじめ東海ブロック一丸となり、最終仕上げをしていきたいと思えます。

今回は皆さんに改めて、大会の主な企画内容と準備状況についてお伝えします。

まず、共同作業所づくり50周年特別企画「オープニングステージ」として、これまでの共同作業所づくり運動の歴史を、合唱と朗読で表現します。合唱は愛知のみならず岐阜、三重、静岡の仲間、家族、職員、名古屋青年合唱団、ボランティア、関係団体の皆さんと総勢400名で歌いあげます。

共同作業所づくり運動の歴史において、うたごえ運動とは大きなつながりがあります。これまでゆたか福祉会においても、「歌」は歴史の節目節目で大きな役割を担ってきました。合唱では今回の大会



テーマソング「高く飛ばそう」をはじめ、「おくりもの」「仲間たちキラキラ」と、私たちにとって馴染み深い歌が登場します。

大会前の通し練習では、東海ブロック各地から300名が集まり、本番さながらに歌の練習を行いました。「高く飛ばそう」は、作詞をしていただいた石黒真知子さんが各現場を直接訪問し、対話をする中で出来上がった詩です。「ありがとう」や「仲間たち」「大切な言葉」等、歌詞には私たちの想いがたくさん込められています。ステージでは想いを精一杯、伝えたいと思えます。

また特別企画のシンポジウムでは、ゆたか作業所職員第一号の鈴木峯保さんや、利用者の加藤春子さんから、共同作業所創成期の頃の様子や次世代に期待する想いを語って頂きます。無認可作業所が誕生した1960年代、貧困な制度施策の中、障害者とその家族の正当な要求、願いを受け止め、権利として実現する事を目指した運動の歴史や、想いを聞かせていただく大切な機会となります。

今大会の特徴として、20代、30代の若手職員が数多く準備会に参加しています。殆どの職員が2002年の前回大会や、無認可作業所時代を経験していない職員です。この愛知大会を通して、私たち自身も先人の想いや歴史を学び、次に何を引き継いでいくのか確認する機会となることを期待しています。そして、全国の皆さんと大会スローガンである「つなげよまい未来へ、つなごろまい仲間の輪」を体現できる記念の大会としていきたいと思っています。ぜひ皆さん楽しみにしてください!

今治 信一郎

お詫びと訂正

広報8月号P9「秋の行事一覧」に誤りがありました。お詫びして訂正させていただきます。

- ・11/3(日) 行事名
(誤) 南区障害者と区民のふれあいさわやかウォーク → (正) 南区障害者と区民のつどいさわやかウォーク
- ・11/10(日) 開催場所
(誤) 日本ガイシスポーツプラザ → (正) 南文化小劇場、大磯小学校



8月

日誌

- 1日(木) 新入職員「合宿研修」(2日目)
- 2日(金) 事務事業推進会議
- 3日(土) 諸の木盆踊り / 宝平和盆踊り
/ 全障研大会(～4日)於:長野
- 4日(日) 盆供養祭・共同墓地管理委員会
- 5日(月) 事業運営推進会議
- 20日(火) 権利擁護・虐待防止会議
- 21日(水) 所長会議
- 24日(土) 理事会・運営協議会
- 26日(月) 研修部会議
- 27日(火) 南障会コンサート
- 28日(水) ゆたか希望の家指導監査
/ 新管理職研修
- 29日(木) 広報・ホームページ編集委員会
- 30日(金) 主任研修
/ きょうされん安居楽業(～31日)於:東京

表紙の作者紹介



つゆはし作業所
小川 陽一さん

作業所に在籍して33年になる小川さんは、とても穏やかで仕事熱心な方です。そして毎日、連絡帳に絵日記を書かれています。

一日の間に起きた出来事を、次の日の朝に思い出しながら完成させるそうです。

“つゆはし”では連絡帳を、現場とご自宅、ホーム間の情報共有としてだけでなく、なかまのみなさんが“好きなものを自由に書いて表現できる場”としても活用しています。色鉛筆で鮮やかに彩られたノートには、仕事のふりかえりや食べたもの、観た映画など、さまざまな日常が描かれています。

普段はクールな陽一さんですが、カメラを向けると「はい、チーズ!」と素敵な笑顔とポーズを決めてくれました。

ありがとうございます

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

川端 幸代
堀江 まる子
中村 美代子
中西 和子
高森 裕司
丸山 了治
尾関 啓子
夢喰人 渡辺 勉



(8月15日～8月30日手続き分)
順不同敬称略

賛助会員新規加入者・
更新者(芳名一覽)

成田 寛幸
若林 光子
株式会社大谷商会
代表取締役 大谷恒夫
池野 柘也

一般寄附(7月・9月)

広報・441号

2019年10月号(2019年10月10日発行)
定価1部100円
法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協年会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協年会費 = 年間1口 6,000円、
賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

2019年度 正規採用職員紹介(10月1日付け入職)



ゆたか希望の家 ^{もりか あゆみ} 森加 朱巳

趣味・好きなこと
読書、甘いものを食べること、
高原へ行くこと、テディベア

私は今から16年前の2003年4月に、第2ゆたか希望の家に看護師として入職しました。3年余働き、結婚を機に退職をしましたが、この10月からゆたか希望の家の看護師として働かせて頂く事になりました。再びゆたか福祉会で働かせて頂ける事を、大変嬉しく思います。

今後は入所施設の経験を活かし、専門職として仲間の健康で、安全、安心な暮らしを守る為に、微力ですが、精一杯頑張っていきたいと思っております。

その人らしく働く 暮らす

Vol.82

仲間

「仲間たちの中心として、更なる飛躍を」

みのり共同作業所 西畑 勇希さん



養護学校卒業後、2008年4月にみのり共同作業所に入所された西畑さん。今年5月末に行われた自治会選挙では18票を獲得。6名の役員の中で、唯一の男性」として、会長に任命されました。「自分に会長が務まるかな?」と不安を口にすることはありませんが、「よし、がんばろう!」と、前向きに捉えることができる性格の持ち主です。

また優しい一面もあります。体調の優れない仲間や困っている仲間に対し「大丈夫? 少し休んだら?」と気遣ったり、時には「ケンカするなよ!」と仲裁に入ったり、正義感が強い周囲のまとめ役のような存在です。仕事面では入所以来、ウエス現場に所属し、洗濯や乾燥の仕事を中心に携わってきました。最近ではシーツやタオルをたたんだり、時には納品・仕入れに出掛けたりと、仕事の幅を大きく広げています。納品先で

は「ありがとっ!」と嬉しそうに笑顔で挨拶し、営業活動でも力を発揮しています。唄うことが大好きな西畑さん。以前は地域の合唱団に所属していました。仲間や職員が「何か唄って!」とリクエストすると、素敵な歌声で「翼をください!」を披露してくれます。

これからも持ち前の活発さで仲間たちをリードし、作業所全体を層、盛り上げていって欲しいと思います。

河村 聡



慣れた手付きでウエスたたみ

職員

「仲間との時間を大切に」

ゆたか生活支援事業所みなみ 小林 みのり



ゆたかとの出会いは大学3年生の時でした。障害を持つなかまが働く場には「どんな仲間がいて、どんな仕事をしているのか?」知りたいたいと思い、リサイクルみなみ作業所で社会福祉実習をさせていただいたことがきっかけでした。実習では、仲間の皆さんの生き生きとされている姿が、とても印象的でした。当時は福祉の現場への就職はあまり考えていませんでしたが、実習を期に「ゆたかで働きたい!」と思うようになりました。

大学を卒業し、配属となった「ゆたか生活支援事業所みなみ」で働かせていただいて1年半になりましたが、まだまだ未熟です。仲間と関わっていく中で、日々の実践の中で失敗して落ち込んだり、仲間の支援や関わりなどについて「これでいいのかな?」「もっといい支援があるのではないかな?」などと悩むこともたくさんあります。仲間から学ぶことがたくさんあり、日々勉強だと感じています。し

かし、入職してから今まで、ホームの仲間と過ごしていく中で旅行に参加したり、誕生日会を行ったりと仲間との楽しい時間をたくさん過ごせていただきました。一緒に時間を過ごしていく中で、仲間の笑顔を見るのができたり、仲間のいっもとは違った一面を見ることができた時などに喜びや楽しさ、やりがいを感じています。

これからも、仲間と過ごしていく時間を大切に、ホーム職員として仲間が楽しく笑顔で、安心して暮らすことができるように、「自分ができることは何か」を常に考えていきたいです。



ホームにて。素敵な笑顔です!